

新刊「童謡の法則」から学ぶ作詞・作曲テクニック

のぐちよしのぶ

野口義修先生にインタビュー！

童謡の始まりとされる児童雑誌「赤い鳥」が1918年7月1日に発刊されてから今年（2018年）でちょうど100年。そんな年に全音楽譜出版社から出版される『「童謡の法則」から学ぶ作詞・作曲テクニック～歌い継がれる歌と、消えゆく歌の違いとは？～』の著者、野口義修先生へのインタビューをお届けします。

野口先生は、ご自身も作曲・編曲家であり、代表曲「そーっと・そっと」はNHK「おかあさんといっしょ」で30年間放映されつづけています。また、レコードディレクターとしても、あみん「待つわ」、アラジン「完全無欠のロックンローラー」、雅夢「愛はかげろう」、伊藤敏博「さよなら模様」……など、100万枚を超えるヒット曲を制作しており、この本はまさに野口先生だからこそ書けた1冊だと思います。

そんな野口先生に今回の企画に至ったきっかけや、童謡の素晴らしさなどを伺いました。（聞き手：全音楽譜出版社営業部）

——本日はご来社くださいませ、ありがとうございます。本書は「童謡」について多面的に分析し、作詞・作曲のテクニック習得を目指すものでもあります、まずは企画誕生のきっかけからお聞かせください。

野口：いろいろあるのですが、一番は「2018年の童謡100年」になにか寄与できたという思いですね。だから、昨年いろいろ動いていました。本を出すには、時間がかかりますからね。

もう一つは、個人的な話ですけれど、昨年、初孫が生まれました！！だから、この子たちの世代に向けて、何かを伝えなくちゃ！という思いも大きかったです。そして、さらに2018年は、野口と遠藤幸三さんとで作った「そーっと・そっと」という子どもの歌が『おかあさんといっしょ』の今月の歌として発表してから30周年でもあるのです。これは、もうやるかない！そんな思いでした。

——お孫さん！おめでとうございます（笑顔）。本も

多面的なら、企画の意味合いも多面的に重なっているんですね！まさに先生ならではの企画だと思います。読ませていただいて、自分も歌が作りたくなったり、童謡を飛び越えて、音楽に対する知的好奇心が刺激されてワクワクしました。

野口：ありがとうございます。言いたかったことを、代弁していただきました（笑）。タイトルは『作詞作曲のテクニック』となっていますが、その基本は押さえながら、もっともっと幅広い音楽愛に溢れた一冊となりました。編集の皆さんの温かいアドバイスの賜物と思っています。

——野口先生にとって「童謡」とはどんなものですか？

野口：ボーダーレスな音楽！ですね。子どものために作られた歌、子どもが作った歌、子どもの心をもった大人が作った歌、当代一流の芸術家や音楽家が作った歌、名もない市井しせいの人々が作った歌……かな？最近では、



「童謡の法則」から学ぶ
作詞・作曲
テクニック
歌い継がれる歌と、消えゆく歌の違いとは？
ことばとメロディーが輝き出す！
10の法則から見る名曲の極意

数々の童謡の名曲から「法則」を導き出し、「長く愛される」曲をつくるための作詞・作曲テクニックを伝授する、画期的な1冊。

[こちらのページ](#)で立ち読みができます。

（2018年6月15日発売）

『おかあさんといっしょ』や『みんなのうた』などで流れてくる歌もそうですね。

——曲の紹介の所では、作品誕生のいきさつや、作者の創作時のエピソードが興味深いです。

野口：自分の子どもたちに、ずっと伝えて来たことがあるのですが、世の中の全ての歌や絵画は「だれかがつくったもの」なのですね。だから、名無しの歌や詠み人知らずの歌、作者不詳の絵に対しても、その背後にいる「作者」に対するリスペクトを忘れてはならない！と思います。特に、童謡は歴史の流れの中で、作者が忘れられてしまうこともありました。だからこそ、作ってくれた人にたいして感謝の気持ちを忘れてはならないと思うのです。

本書では、楽曲を作った先生方の“個性”や“らしさ”が感じられるようなエピソードもなるべく盛り込もうとしました。

そして、先生方が生きてきた時代や空気感も随所にふれました。本書に紹介した歌たちは、才能のある先生方がサクッと気軽に作ったものではなく、さまざまな思いや苦悩や喜びの果てに生まれた作品ばかりなのです。先生方！ありがとうございます！そんな思いを、本書に詰め込みました。

——具体的なエピソードを紹介していただけますか？

野口：僕の大好きな作曲家、中田喜直先生は、その大傑作の「夏の思い出」や「めだかの学校」で、お母さんや女性の友だちからのアドバイス……というかだめ出しで……曲を書き換えているんですよ。なんとなく人間味あふれるエピソードですし、先生の人間の大きさも感じます。さらに、アマチュアがだめ出しを食らうと心底落ち込んだりするのですが、大先生でも若い頃はそうだったんだという救いのエピソードでもあるのです。

だから、中田先生はインタビューや自伝で、あえてそういう話をされているのかなとも思うのです。とにかく、中田先生の大きさに大、大リスペクトです。

——今回の本の挿絵は、イラストレーターのお仕事をされている、娘さんの sunaho さんですね。

野口：彼女にも、「全てのアートには作者がいる」……それを伝えてきました！楽しい絵を描いてくれましたよ。

——「全てのアートには作者がいる」は、これから作詞や作曲をしたいと思う皆さんには、大きな応援の言葉にもなりますね。本の内容について、いろいろ教えていただけますか？

野口：作詞作曲に関心のある方にぜひ読んでいただきたいです。非常に分かりやすい作詞作曲の入門書になっています。ポップスやロック派の方にも、目から鱗だと思いますよ。本の中にも、「Jポップについてたくさん触れています。

僕はビートルズ・フリークなのですが、原点はNHKの『みんなのうた』だったりします。ビートルズだって、「イエロー・サブマリン」とか「オブラディ・オブラダ」とか子ども向けの歌をたくさん作っています。まさに、ボーダーレスな童謡ですね。

—— 書名にある「童謡の法則」について教えてください。

野口：歴史を越えて残っている童謡や子どもの歌を調べていくと、やはり、ものすごく理論的にもきちんと作られていることが分かるのです。何気なく歌ってきた子どもの歌に、こんなに作詞や作曲の美味しい理論やテクニックが詰まっていたのか！！と僕自身がびっくりした程です。

で、もっと驚くのが、童謡で発見する理論などは、現在のポップスやロックなどにも通じるテクニックだったりするんですね。

—— それを「童謡の法則」と？

野口：そうですね。童謡は短い曲も多いので、法則がわりと分かりやすい形で表に出ているのですね。しかも皆さんが知っている曲ばかりだから、説明もしやすいし、理解してもらいやすいのです。

童謡に対する愛情100%で本書を書きましたが、これで学んだから童謡しか作ることができない！なんてことはありません！童謡はもちろん、Jポップやロックにも完全に応用できます。

童謡には、長い歴史の荒波を乗り越えて生き残ってきたパワーがあります。それを、これから作詞や作曲をする皆さんに、学んで欲しいのです。

——なるほど。最近はロングヒットするJポップが少なくなっている気がしますね。

野口：本当に良い歌には歴史の中で生き続けるパワーがあります。僕がプロデュースした「待つわ」という楽曲は、それこそ30年以上、カラオケなどでも歌われ続けていますね。昨年もテレビCMか何かで聴いた記憶があります。あれは、本当に良くできた曲だからです。

でも最近の曲にも、実は良い歌は沢山ありますよ！昔のように、みんなが同じ歌を共有する時代ではなくなったから、紅白歌合戦を見ても知らない曲が多いとかなっちゃうんですが……ジックリ聴いてみると素晴らしい歌だったりします。

要するに、歌を作る人にとっては、たった一人でも良いから、その人の心に突き刺さるような歌が作れば、本当に幸せなのです。その思いを、童謡の法則という言葉に集約したのは事実です。

——この本には「長く人に愛される曲」を書くためのヒントが隠されているというわけですね！

野口：はい！！実は、表紙にある「めざせ！100年残る歌」というのは編集の方から頂いたアイデアなのです。初めて聞いた時に、ドキッとして、ジーンとしました。そうか、こういう本を書いていたんだと、改めて感動したし、責任も感じました！ほんと、全音さんの編集チームは素晴らしいアシストをいくつもいただきました。

——さて、先生の音楽的ルーツはどのあたりですか？

野口：ビートルズです。それと、小学生のころに聴いた『みんなのうた』。

実は、この本に楽曲を紹介させて貰った歌のお兄さんの坂田おさむさん！彼から、曲を本で紹介してくれてありがとうというメールを頂いたんですが、おさむお兄さんも、ビートルズ派でしたね。

——おさむお兄さんからはなんと？

野口：「懇切丁寧な解説やセッションはきっと読者の皆様に喜ばれることと思います」という、ありがたい本書に対するお褒めの言葉をいただきました。

実は、NHKで「そーっと・そっと」を最初に今月の

歌で歌ってくれたのが、おさむお兄さんだったのです。本書で取り上げた曲の作者から、直接、認めていただけことは、著者として心強い応援をいただいた感じですね。

——この本には、日本語がどのように音楽に乗るかというようなこともたくさん書かれていて、先生の得意分野という感じがしました。

野口：嬉しいです！日本語って、実は、すごく音楽的なのですよ。素敵な歌詞には、意味やメッセージがあると同時に、言葉としての響きの美しさ、そして、言葉のフレーズとしてリズム感やビートを感じます。それを、本書では、ジックリ解説しています。

これを知らずに、歌ったり教えたりするのと、知ってから歌ったり教えたりするのでは、相手に伝わるものが、全く変わってくるでしょう！！

——歌詞の考察にとっても感銘を受けました！たとえば、「いちねんせいになったら」で、富士山に登りたい幼稚園児の手の上のおにぎり。その富士山と三角おにぎりとは、相似形だという発想！先生の凄さを感じました。

野口：ありがとうございます（汗）。あの歌って、幼稚園児の小学校に進学する期待感と不安感の入り交じった感情を描いているのですね。

でも、あのデッカい富士山だって、きみの手の中にあるんだよ！だから大丈夫さ！という作者（まど・みちお先生）からの応援メッセージと感じるのです。



イラスト：sunaho
(本文より)

◆sunahoさんホームページ◆

<https://sunahoneybee.wixsite.com/suna>

——ご自身の曲「そーっと・そっと」の分析もとても興味深かったです。

野口：30年、「おかあさんといっしょ」で歌われ続けてきています。この本の楽曲の一員に加えてもらえる資格はあるのかな？と編集の中山さんに相談しました。はい、独断で自分の作品を入れたんじゃない（笑）。中山さんも、笑顔で賛成してくれましたよ（安堵）！

作曲家としての野口の傑作曲です。たった10小節にさまざまな思いやテクニックを詰め込んだ自信作です。歌詞もそうですが、メロディーも……作者の熱い思いが詰め込まれているから、30年も生き残るのですね。でも、まだ100年までには、あと70年はがんばってもらわなければなりません（笑）。

幼児が初めてカップでミルクを飲むシーンが描かれています。そのカップの位置とメロディーの高低とが見事にシンクロしているのです。そして、メロディーのピークで♪おととと……となるのです。ぜひ、読んでほしいですね。

——作曲者から直接話を聞けるのは、あまりないですからね。

野口：そうそう、あの曲は、長女が「おかあさんといっしょ」を観るような年になったので、娘のためにと考えて作った曲でした。それが、30年たって、孫を産んでくれました。そのタイミングで本書『「童謡の法則」から学ぶ作詞・作曲テクニック』が出るのも縁を感じますね。

あのページのイラストは、二女のsunahoが、姉の子どもの似顔絵で描いてくれたと、出版してから聞かされました。まだ、1歳の赤ちゃんですから、想像の似顔絵ですけれどね。

sunahoも粋なことをするなあと思いました（笑）。



イラスト：sunaho
(本文より)

——いろいろお話を伺うと、先生の本（「童謡の法則」から学ぶ作詞・作曲テクニック）は、本当に様々な方の心に届く作品となっているのだと実感しますね。作詞家作曲家を志す人だけでなく、ピアノの先生や保育園の先生にも、リアルに育児中のお母さんにも読んでいただけたらと思いました。

野口：ありがとうございます。こういった音楽の素晴らしさを伝えること、作詞作曲の楽しさを伝えること……が、僕が生まれた意味の一つだと思っています。ぜひ、本書をよろしくお願ひいたします。

全音楽譜出版社の[商品ページ](#)で、2編の立ち読みも出来ますから、関心があるかたは、そこだけでも読んでいただくと嬉しいです。

また、野口の講演やレッスンを聴いてみたいという方は、野口のサイト（[よしの部](#)）でお問い合わせください。

——先生、どうもありがとうございました。

野口：こちらこそ、ありがとうございました。

野口 義修 プロフィール

1953年、名古屋市生まれ。

作編曲家・音楽プロデューサー・音楽教育……。音楽プロデューサーとして……あみん「待つわ」/アラジン「完全無欠のロックンローラー」/雅夢「愛はかげろう」/伊藤敏博「さよなら模様」……など、100万枚超のヒットの曲作りから指導、シングルのレコーディング制作までを担当。こどものうた 作編曲家として……NHK おかあさんといっしょ「そーっと・そっと」「かけぶとん しきぶとん」/NHK みんなのうた「あいこでしょ」〈歌：工藤夕貴〉……などを作編曲。

■校歌、自治体の歌など……大分県国東市公認ソング「ららら さ吉くん」作詞・作編曲/西東京市柳沢公民館30周年記念歌「ふれあいのうた」作詞・作編曲/西東京市東伏見小学校50周年記念歌「信じる力」作詞・作編曲/岐阜県関市小金田保育園園歌 作編曲

■音楽教育など……昭和音楽大学、ヤマハ音楽院などで講師を歴任。ヤマハ、NTT、公募ガイド社などで、作詞作曲の通信教育やeラーニングのプロデュース、教材作成、指導を担当。ヤマハのエレクトーンの世界大会審査員〈インターナショナル・エレクトーン・フェスティバル〉、ポプコン全国大会などで 審査員……などを歴任。